

幼小連携のための保育・教育実践における木育教材の開発Ⅱ

—保育者を中心としたアンケート調査の結果から—

矢野 真 田 爪 宏 二
(児童学科教授) (京都教育大学教育学科准教授)

本研究は、幼小連携のための「木育」教材に着目し、「木育」によるワークショップに参加した保育者を中心としたアンケート調査の結果から分析を行い、「木育」教材の有効性について検討を行った。その結果、参加した多くの保育者が、日々の保育において、多少は幼小連携を意識していることが窺われた。なかでも、「木育」による作品づくりの幼小連携への効果を肯定的に捉えている保育者は、その効果や保育への導入について肯定的であるだけでなく、活動に対して自信を持っていると言えることがわかった。また、木育による造形活動の幼小連携における可能性については、幼小の経験の連続性や「木育」経験による感性を育むなどの教育効果につながることで、さらに学力に結びつく認知的能力だけでなく、その下支えとなる非認知的能力の育ちにも効果があると考えられていることがわかった。

キーワード：木育、幼小連携、木育教材、ワークショップ、保育者研修

1. はじめに

本研究は、幼小連携のための保育・教育実践を考慮した、保育者養成校¹⁾と保育現場、小学校、そして地域との交流を通して、子どもの感性を高め、身近な素材に関わりながらコミュニケーション能力を育むための「木育」²⁾教材の開発を提案するものである。

平成27年度から「子ども・子育て支援新制度」が実施され、保育者養成校においても、質の高い幼児教育を提供するための「保育者の専門性」が語られることが多い。その一例として、子どもと同様に保育者自らの感性を育むこと、そして親との対応も含めたコミュニケーション能力の向上が挙げられる。新制度以前の2012年8月の中教審答申（文部科学省、2012）においても、「協調性と創造性を合わせ持つことのできるような大学教育への質的転換（中略）そのために必要な人材の育成などが必要である」と結論づけている。また、2018年度施行の幼稚園教育要領・保育所保育指針における幼児教育の

キーワードである「学び」は、子ども主体の遊びや活動を通して自ら学ぶ姿を支えることが求められており（内閣府・文部科学省・厚生労働省、2017）、幼児期に育みたい資質・能力の「3つの柱」に挙げられる基本的な技能の育成や、「身近なものに関わり感性が育つ」ことをより具体的に提示していくことが求められる。

そして小学校の各教科等における生活科を中心としたスタートカリキュラムでは、合科的・関連的な指導の工夫等の必要性が求められている。これらを実際に実現するためには、様々な視点から子どもや保育者の基礎的な技能と感性、そしてコミュニケーション能力を育むための具体的な教材を提示していく必要性が求められる。

平成27年度より、「木育」による実践的教材がどのように有効であるかを中心に、具体的な研究と試行（計画・実践・評価）を目的とした、地域の保育所・幼稚園との連携による子どもたちへの木育ワークショップを提案してきた³⁾。

この研究では、保育者への造形研修等におけ

る木育による教材提案を通して、感性を育む造形教材としての「木育」の現状を把握し、その問題点の抽出と検討を行ってきた。例えば、矢野・田爪（2017）は、「保育者養成におけるコミュニケーション能力を育成するための造形教材の開発Ⅰ」において、参加者である保育者の多くが木についての興味を持ち、保育で実践しようとする声も聞かれたこと、また「木育」のもつリラクゼーションの特性が保育者や子どものコミュニケーション・スキルの向上につながる可能性が考えられ、保育における効果が実感できることを導き出した。

また、矢野・田爪（2019）では、「地域連携を通じた木育教材の開発」において、大学での「木育」による造形教材に関する学びについて、参加した学生が地域への貢献とともに、「木育」による教材の作成や保育への応用、さらには小学校での技術的な指導のあり方を考えること、そして様々なコミュニケーションなど多くのことを学び、自己の技能や意識を向上させるといった結果を導き出した。

2. 目的と方法

それらを踏まえ本研究では、幼児期に育みたい資質・能力の「3つの柱」に挙げられる基本的な技能の育成や、「身近なものに関わり感性が育つ」ことをより具体的に提示していくために、幼小連携のための「木育」教材に着目し、「木育」によるワークショップを実施した。本研究ではその実践について報告すると共に、それに参加した保育者及びその周囲の保育者を中心に実施したアンケート調査を分析し、幼小連携のための「木育」による教材の有効性について検討を行うことを目的とした。

なお、調査協力者に対し、研究の目的及びプライバシーの保護等の倫理的配慮を伝え、データの使用等について協力者及び協力機関からの同意を得ている。

3. 「木育」によるワークショップの実践例

ここでは、本研究の調査対象者が以前に参加した「木育」によるワークショップの実践例に

ついて、報告する。

いずれも制作を通じて、保育者全員が保育現場で木を使って子どもの感性を育むことの大切さを感じるとともに、保育活動に木を取り入れることのきっかけとなるような教材として配慮し実践を行った。

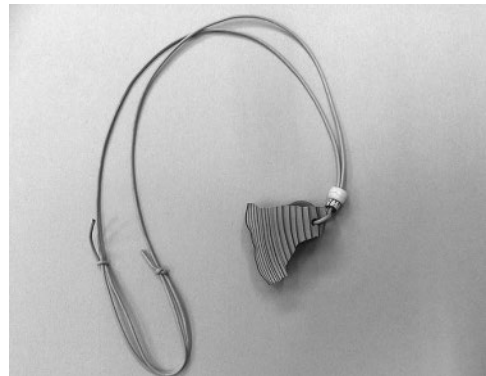
3-1. 実践例1：杉を使ったペンダント制作

実施：2015年5月20日、18：00～19：30

実践例1では、京都で採れた直径約10cmの杉材の年輪（木口）部分を利用してペンダントの制作（写真1）を行った⁴⁾。

玄能で叩いて割ることができる木口部分の偶然にできたかたちの面白さ（写真3）を利用し、杉の持つほのかな香りと年輪の模様や偶然に割ってできたかたちを何かのかたちに見立てるなど、木片と対話を行いながら制作を行った。

参加した保育者は、初めのうちは木を使って



〈写真1〉杉を使ったペンダント完成品



〈写真2〉実践の様子



〈写真3〉杉の木口を玄能で叩き割る



〈写真4〉4種の木片に触れ、違いを実感する

制作することに不安を感じていたようであるが、玄能で叩くことによって割れることの不思議さと面白さに惹かれていく様子が窺われた。

また、ほとんどの保育者がほのかに香る杉に魅力を感じたようで、紙やすりをかけながら香りを楽しむ様子が頻繁にみられ、ペンダント完成後も、首にかけながら香りを楽しんでいる様子が窺われた。

3-2. 実践例2：4種の木片を使ったペンダント制作

実施：2015年12月11日，18：00～20：00

日本産である朴，松，杉，楠の4種材を使い制作を行った⁵⁾。

国産の朴，松，杉，楠の4種の木片を紙やすり（150，220，400，600番）をかけ，それぞれの木の手触りや香りについて，違いを感じながら仕上げた。

「木育」について，日本の森林面積や寺社・仏閣，そして日本書記などにみられる木についての理解を深め，「日本は木の文化である」ということを理解した後，日本や世界には様々な木があることの理解を深めた。それらを踏まえ，4種類の木片を用いた実践を行い，4種類の木片の手触りや色，香りの違いを意識しながら制作の様子がみられた〈写真4〉。

紙やすりをかける場面では，木屑が出ることを気かけながらも，それぞれの木が持つ香りを確かめながら制作を行う姿がみられ，参加者の中には「(香りに)癒される」と言いながら

作品づくりを積極的に行う様子が窺われた。
〈写真5・6〉



〈写真5〉好きなかたちを紙やすりをかけてつくる



〈写真6〉かたちが出来上がることを楽しんでいる様子

3-3. 実践例3：「木製にぎにぎ」をつくる

実施：2016年8月6日，9：00～10：15

木についての基礎知識を学んだ後〈写真7〉，

杉と楠の木片をそれぞれ紙やすりをかけ、香りの違いを感じたり、桐とイスノキ、バルサとリグナムバイタの重さを比べる工程を通して、松を使った「にぎにぎ」の制作を行った⁶⁾。

「木のにぎにぎ」づくりでは、日本産の松の三角柱の木片を用意し、やすりがけ〈写真8〉を行うことにより、自分の手に合った触り心地を楽しむ活動を行った。木工やすり（ドレッサー）で形を決めた後、150番、220番、400番の紙やすりをかけるだけのシンプルな活動だが、保育者の感性に問いかける活動となった。最初は、木片の形を目で見るだけで確かめていた保育者も、やすりがけが進むにつれて手触りで形を認識し、理想の触り心地を楽しみながら活動していた。やすりがけの力加減や使い方を工夫し、感触の変化を確かめながら、角の丸み、バランス、なめらかさ等、それぞれのこだわりが感じられる作品へと仕上げていった。また、紙

やすりをかける度に香る松の香りは、緊張感を解し安らぎの空間を作り出すとともに、手先に意識を集中させ、真剣でありながら穏やかな表情で制作を行う姿が、多くの保育者から窺われた。

3-4. 実践例4：好きな香りの木屑を使った動物制作

実施：2017年8月5日、9：00～10：15

日本産である松、桧葉、楠、松の4種材を使い、やすりをかけることで香りの違いを確かめながら、木屑を使った動物の制作を行った⁷⁾。

香りの違いについて嗅覚を研ぎ澄まして感じる保育者の様子は、真剣且つ木が醸し出す安らかな雰囲気にも包まれている様子が窺われた。

次に、木の接着をでんぷんのりで行う活動を行った。保育者の多くは木工用接着剤を思い浮かべており、でんぷんのりで接着できることは初めての経験で驚いている様子であった。保育現場での実用性を考慮すると、でんぷんのりは安全面において適材であり、でんぷん成分を用いた接着は、木工芸の美術作品にも（ご飯粒を練りつぶしてつくったソクイという接着剤）使用されている。この事は「木育」を保育現場で取り入れる一例として、保育者の興味・関心により惹きつける体験となった。

木屑を使った動物づくりでは、木屑の香りと触感を楽しみながら〈写真9〉、袋に入れた木屑を思い思いの動物につくり上げた。木屑の触感や色から受けたイメージから、それぞれの保



〈写真7〉木についての基礎知識を講義する様子



〈写真8〉紙やすりをかける様子



〈写真9〉香り確かめる保育者の様子



〈写真10〉木屑を使った動物（完成作品）

育者の個性や感性が溢れる作品が生まれた〈写真10〉。制作を行う真剣な姿からは、まるで動物に命が吹き込まれるかのようで大変印象的であった。

嗅覚、触覚が刺激された今回の活動から、保育者は木に対しての興味・関心が高まっていた様子が窺われた。

3-5. 実践例5：大工ごっこを通じて作品をつくる

実施：2018年8月4日，9：00～10：15

国産の桧を用いて紙やすりで「磨く」、鋸で「切る」、木槌で「打つ」〈写真11〉という、木を扱う上で基本となる要素を取り入れた、子どもたちの「大工ごっこ」の活動を行った⁸⁾。

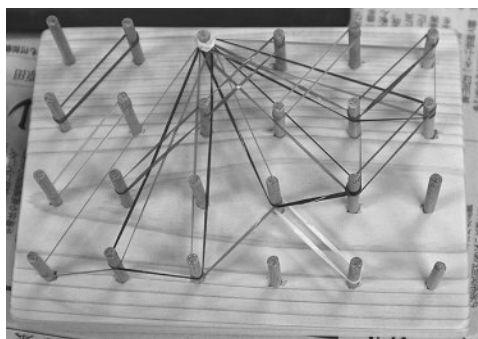
紙やすりで「磨く」段階では、保育者は熱心に取り組んでいた。時折、磨いたところを手で確認し、香りを楽しむ様子がみられ、研修室も桧の良い香りに包まれていた。「切る」段階では、鋸を使って丸棒を24本切るため、数の多さや細い棒を切る難しさことに苦労している様子がみられたが、保育者自身が工夫を行い、切りやすい方法を考えているようであった。「打つ」段階では、木槌の柄を短くし子どもたちにとって扱いやすくしていることに対して、用具の工夫に感心する参加者が多くみられた。木槌を使う保育者のなかには、力の加減や角度によって打ち込んだ棒が折れることもあったが、熱心に取り組んでいた。カラーゴムを掛けて絵にする段階では、参加者それぞれが思い思いの絵にし

ていた。一度描いて終わりではなく、何度もカラーゴムを掛け替えたり、その掛け方を三次元的に楽しむ参加者もいて、それぞれ個性のある作品が完成していた〈写真12〉。

実技後に保育者に感想を尋ねると、桧の良い香りがしたと言う声や、表面がつるつるになってよかったと言う声が多く聞かれ、木に対する興味や関心が高まっていたことが窺われた。



〈写真11〉木釘を打ち込む様子



〈写真12〉カラーゴムを掛けて絵にする（完成作品）

3-6. 実践例6：好きな香りの木を使ったペンダント制作

実施：2019年11月6日，15：00～16：30

日本産である朴、桧、杉、楠の4種材を使い制作を行った⁹⁾。

実践例1と同様に、ほとんどの保育者がそれぞれの木の香りに魅力を感じたようで、紙やすりをかけながら、どの香りが一番好きかを、近くの保育者とコミュニケーションを取りながら楽しむ様子が窺われた。

ペンダント〈写真13〉完成後も、首にかけな

がら香りを楽しんでいる様子が窺われた。



〈写真13〉ペンダント完成品

4. 質問紙調査の結果及び考察

今回は、実践例に挙げたいずれかの「木育」によるワークショップに参加した保育者及びその周囲の保育者を中心に、幼小連携のための「木育」教材に着目した「木育」による教材についてのアンケート調査を依頼し、その分析結果から「木育」による教材の有効性について検討を行った。

分析対象 実践例1～5に参加した保育者のうち154名（回収数156から未回答の多かった2名を除く）。

4-1. 木育活動のイメージ（設問1）

木育活動のイメージに関する質問に対する回答の分布を表1に示す。

「木育」についての事前知識について（項目a）、有していた者（はい／どちらかといえばはい）は48.7%，そうでない者（いいえ／どちらかといえばいいえ）は、45.5%であった。つまり、本実践の参加者は木育についての事前知識を有している者とそうでないものが混在していたと言える。

多くの参加者が実践後には興味を持ち、保育に役立つと考えていた（項目b, d-i）。但し、項目e「子どもとのコミュニケーションに役立つ」および項目g「コミュニケーション・スキ

ルの向上に役立つ」については他の項目よりもやや「どちらともいえない」という回答が多かった。

また、「木育」についての肯定的な評価の一方で、項目c「「木育」を活用した造形活動に保育者側からの難しさを感じますか」については、「はい／どちらかといえばはい」という回答が多く、保育実践への活用の難しさを感じているとも言える。

ワークショップの評価について、半数以上が今回のような作品づくり全般の活動を好きな方であると答えている（項目j）。他方、得意、あるいはうまくできたかについては（項目k-m）、「どちらともいえない」という回答が多く、「はい／どちらかといえばはい」という回答はいずれも3割程度であった。

4-2. 「木育」を活用した「幼小連携」（設問2）

木育活動を活用した幼小連携に関する質問に対する回答の分布を表2に示す。

幼小連携を意識しながら保育活動を行っているか（項目a）については、43.8%が「どちらともいえない」と回答したが、意識しているという回答（はい／どちらかといえばはい）は39.7%，そうでない者（いいえ／どちらかといえばいいえ）は、16.4%であった。多くの保育者が日々の保育において多少は幼小連携を意識していることが窺われる。

今回の活動が幼小連携に役に立つと思うか（項目b）については、52.6%が「どちらともいえない」と回答したが、役に立つと思うという回答（はい／どちらかといえばはい）は45.3%，そうでない者（いいえ／どちらかといえばいいえ）は、2.2%であった。半数近くの保育者は今回の活動が幼小連携に役に立つと考え、役立たないと考えている者は少数であることが窺われる。

表1. 設問1「木育活動のイメージ」の回答人数(上段)と割合(%、下段)

質問項目	5 はい	4 どちらかといえばはい	3 どちらともいえない	2 どちらかといえばいい	1 いいえ	合計
a. 「木育」という語を聞いたことがありましたか。	57 (37.0)	18 (11.7)	9 (5.8)	11 (7.1)	59 (38.3)	154 (100)
b. 「木育」を活用した作品づくりは、今後の保育現場で役に立つと思いますか。	63 (40.9)	56 (36.4)	35 (22.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	154 (100)
c. 「木育」を活用した造形活動に保育者側からの難しさを感じますか。	23 (14.9)	55 (35.7)	53 (34.4)	15 (9.7)	8 (5.2)	154 (100)
d. 「木育」は、子どもの創造性を発展させることにつながると感じましたか。	64 (41.6)	60 (39.0)	30 (19.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	154 (100)
e. 「木育」は、子どもとのコミュニケーションを取ることに役立つと感じましたか。	48 (31.4)	53 (34.6)	50 (32.7)	2 (1.3)	0 (0.0)	153 (100)
f. 「木育」は、保育者の技能向上や創造性の発展につながると感じましたか。	46 (30.1)	66 (43.1)	40 (26.1)	1 (0.7)	0 (0.0)	153 (100)
g. 「木育」は、コミュニケーション・スキルの向上に役立つと思いますか。	31 (20.1)	61 (39.6)	61 (39.6)	1 (0.6)	0 (0.0)	154 (100)
h. 「木育」を活用した造形活動について、もっと知りたい、参加したいと思いましたか。	44 (28.6)	66 (42.9)	42 (27.3)	1 (0.6)	1 (0.6)	154 (100)
i. 今後、「木育」を保育現場に取り入れてみたいと思いますか。	35 (22.7)	74 (48.1)	42 (27.3)	1 (0.6)	2 (1.3)	154 (100)
j. 今回の活動のような、作品づくり全般の活動は好きな方ですか。	49 (36.6)	26 (19.4)	47 (35.1)	9 (6.7)	3 (2.2)	134 (100)
k. 今回の活動のような、作品づくり全般の活動は得意な方ですか。	13 (9.9)	23 (17.6)	63 (48.1)	25 (19.1)	7 (5.3)	131 (100)
l. 今回の作品づくりは、自分としては上手く出来たと思いますか。	15 (12.6)	19 (16.0)	80 (67.2)	4 (3.4)	1 (0.8)	119 (100)
m. 今回の作品づくりは、周りに比べて上手く出来たと思いますか。	5 (4.2)	13 (10.9)	90 (75.6)	6 (5.0)	5 (4.2)	119 (100)

網掛は回答率が30%以上のもの

表2. 設問2「木育活動を活用した幼小連携」の回答人数(上段)と割合(%、下段)

質問項目	5 はい	4 どちらかといえばはい	3 どちらともいえない	2 どちらかといえばいい	1 いいえ	合計
a. 「幼小連携」について、常に意識しながら保育活動を行っていますか。	16 (11.0)	42 (28.8)	64 (43.8)	12 (8.2)	12 (8.2)	146 (100.0)
b. 今回の「木育」による作品づくりは、「幼小連携」で役に立つと思いますか。	20 (14.6)	42 (30.7)	72 (52.6)	1 (0.7)	2 (1.5)	137 (100.0)

網掛は回答率が30%以上のもの

4-3. 幼小連携を意識した保育活動(設問2-a)への回答による、木育活動のイメージ(設問1)の差異

木育活動のイメージ(設問1)の各設問について、回答を「はい=5, どちらかといえばはい=4, 3どちらともいえない=3, どちらかと

いはい=2, いいえ=1」として得点化した。つまり、得点は各設問についての意識の高さを示している。

幼小連携を意識した保育活動の有無(設問2-a)への回答について、「はい/どちらかといはいはい」(58名)、「どちらともいえない」

表 3. 幼小連携を意識した保育活動の有無（設問 2-a）による、木育活動のイメージ（設問 1）の質問項目ごとの平均値（M）と標準偏差（SD）

質問項目/ 幼小連携を意識した保育活動の有無	はい（有り）	どちらとも いえない	いいえ（無 し）	全体	F
	M (SD)	M (SD)	M (SD)	M (SD)	
a. 「木育」という語を聞いたことがありますか	3.39 (1.78)	2.61 (1.72)	2.88 (1.83)	2.96 (1.79)	2.96 +
b. 「木育」を活用した作品づくりは、今後の保育現場で役に立つと思いますか	4.26 (0.71)	4.06 (0.80)	4.17 (0.87)	4.16 (0.78)	0.95
c. 「木育」を活用した造形活動に保育者側からの難しさを感じますか	3.59 (1.16)	3.35 (0.86)	3.46 (1.18)	3.46 (1.04)	0.78
d. 「木育」は、子どもの創造性を発展させることにつながると感じましたか	4.29 (0.73)	4.14 (0.72)	4.13 (0.90)	4.20 (0.75)	0.75
e. 「木育」は、子どもとのコミュニケーションを取ることに役立つと感じましたか	4.12 (0.86)	3.86 (0.76)	3.61 (0.84)	3.92 (0.83)	3.63 *
f. 「木育」は、保育者の技能向上や創造性の発展につながると感じましたか	4.16 (0.85)	3.87 (0.64)	4.00 (0.78)	4.01 (0.76)	2.12
g. 「木育」は、コミュニケーション・スキルの向上に役立つと思いますか	3.98 (0.83)	3.62 (0.66)	3.67 (0.76)	3.77 (0.76)	3.87 *
h. 「木育」を活用した造形活動について、もっと知りたい、参加したいと思いましたか	4.07 (0.81)	3.94 (0.76)	3.79 (0.93)	3.97 (0.81)	1.06
i. 今後、「木育」を保育現場に取り入れてみたいと思いますか	3.97 (0.79)	3.84 (0.75)	3.83 (0.96)	3.89 (0.80)	0.43
j. 今回の活動のような、作品づくり全般の活動は好きな方ですか	4.04 (1.09)	3.69 (1.00)	3.41 (1.14)	3.78 (1.08)	3.10 *
k. 今回の活動のような、作品づくり全般の活動は得意な方ですか	3.42 (1.10)	2.85 (0.81)	2.75 (0.97)	3.07 (1.00)	5.87 **
l. 今回の作品づくりは、自分としては上手く出来たと思いますか	3.49 (0.82)	3.30 (0.71)	3.11 (0.83)	3.35 (0.78)	1.76
m. 今回の作品づくりは、周りに比べて上手く出来たと思いますか	3.08 (0.81)	3.08 (0.63)	2.94 (0.64)	3.06 (0.71)	0.28

** $p < .01$ * $p < .05$ † $p < .10$

註 F 値は 1 要因分析による幼小連携を意識した保育活動の有無による各尺度得点の比較の統計値。

(64名)、「いいえ／どちらかといえばいいえ」(24名)の3群に分けた。この3群を独立変数とし、木育活動のイメージ（設問1）の設問ごとに1要因分散分析により得点を比較した。結果を表3に示す。

主効果が有意であった項目は「e. 「木育」は、子どもとのコミュニケーションを取ることに役立つと感じましたか」、「g. 「木育」は、コミュニケーション・スキルの向上に役立つと思いますか」、「j. 今回の活動のような、作品づくり全般の活動は好きな方ですか」「k. 今回の活動のような、作品づくり全般の活動は得意な方ですか」であり、いずれも幼小連携を意識した保育活動について「はい／どちらかとい

えばはい」と回答した群の得点が高かった。この結果から、幼小連携を意識した保育活動を行っている保育者は、木育が特にコミュニケーションにとって有効であることを感じているといえる。さらに、木育による作品づくりの活動を好み、自信を持っていると言える。

4-4. 木育による作品づくりの幼小連携への効果（設問2-b）への回答による、木育活動のイメージ（設問1）の差異

木育による作品づくりの幼小連携への効果（設問2-b）への回答について、「はい／どちらかといえばはい」(62名)、「どちらともいえない／いいえ／どちらかといえばいいえ」(75

表4. 木育による作品づくりの幼小連携への効果の有無（設問2-b）への回答による、木育活動のイメージ（設問1）の質問項目ごとの平均値（M）と標準偏差（SD）

質問項目／木育による作品づくりの幼小連携への効果	はい	どちらともいえない ／いいえ	t
	M (SD)	M (SD)	
a. 「木育」という語を聞いたことがありますか。	3.15 (1.75)	2.93 (1.82)	0.69
b. 「木育」を活用した作品づくりは、今後の保育現場で役に立つと思いますか。	4.42 (0.69)	3.95 (0.79)	3.70 ***
c. 「木育」を活用した造形活動に保育者側からの難しさを感じますか。	3.53 (1.20)	3.43 (0.92)	0.58
d. 「木育」は、子どもの創造性を発展させることにつながると感じましたか。	4.56 (0.56)	3.91 (0.77)	5.58 ***
e. 「木育」は、子どもとのコミュニケーションを取ることに役立つと感じましたか。	4.32 (0.70)	3.61 (0.81)	5.47 ***
f. 「木育」は、保育者の技能向上や創造性の発展につながると感じましたか。	4.31 (0.64)	3.76 (0.77)	4.46 ***
g. 「木育」は、コミュニケーション・スキルの向上に役立つと思いますか。	4.13 (0.69)	3.48 (0.68)	5.51 ***
h. 「木育」を活用した造形活動について、もっと知りたい、参加したいと思いましたか。	4.21 (0.68)	3.72 (0.85)	3.67 ***
i. 今後、「木育」を保育現場に取り入れてみたいと思いますか。	4.21 (0.70)	3.64 (0.80)	4.38 ***
j. 今回の活動のような、作品づくり全般の活動は好きな方ですか。	4.21 (1.07)	3.42 (0.97)	4.41 ***
k. 今回の活動のような、作品づくり全般の活動は得意な方ですか。	3.18 (1.11)	2.98 (0.89)	1.11
l. 今回の作品づくりは、自分としては上手く出来たと思いますか。	3.60 (0.81)	3.14 (0.69)	3.31 ***
m. 今回の作品づくりは、周りに比べて上手く出来たと思いますか。	3.11 (0.81)	3.02 (0.61)	0.71

*** $p < .001$

註 t 値は、t 検定による木育による作品づくりの幼小連携への効果による各尺度得点の比較の統計値。

名)の2群に分けた(「いいえ／どちらかといえばいいえ」は3名と少数であったため2群とした)。この2群を独立変数とし、前節と同じく木育活動のイメージ(設問1)の設問ごとの得点をt検定により比較した。結果を表4に示す。

木育の機知度を示す項目a、保育導入への難しさを示す項目c、活動への評価を示す項目k、mを除いた項目において、いずれも木育による作品づくりの幼小連携への効果について「はい／どちらかといえばはい」と回答した群の得点が高かった。この結果から、木育による作品づくりの幼小連携への効果を肯定的に捉えている保育者は、木育の効果や保育への導入について

肯定的であり、また活動に対して自信を持っていると言える。

4-5. 木育による造形活動の幼小連携における可能性(自由記述)

『「木育」による造形活動について、『幼小連携』においてどのような可能性があると思いますか』と質問し、自由記述による回答を求めた。分析対象とした154名中、56名(36.4%)から回答が得られた。記述の特徴に基づき、回答のカテゴリー化を行った。結果を表5に示す。なお、一名の回答が複数のカテゴリーに分類される場合があるため、カテゴリーごとに自由記述の総回答数に対する割合を算出した。

表 5. 木育による造形活動の幼小連携における可能性のカテゴリーとその頻度、及び記述の例

カテゴリー	N (%)	記述の例	
幼小の経験の連続性	12 (21.4)	・幼児と小学生ではできる事に差があり、上手く活用すれば、力が要る事や、難しい作業は小学生にさせて、それを見るだけでも、幼児には良い経験になるのでは。 ・幼稚園において経験しておくことで小学校での活動に自信をもって取り組むことができる。	
経験・学びの連続性	小学校の学習への効果	4 (7.1)	・木に触れ、手ざわりや形等小さいうちに感じ、小学生になって、さらに深く考え、興味を持てるようになるとより育める。 ・進学後の理科や生活に対する、学びの意欲が広がると思います。
	図工・制作への効果	13 (23.2)	・図工など造形活動の際、自らすすんで表現しようとする力が養えると考ええる。 ・小学校からは版画をしたり木で何かを作る機会が多くなると思うので、幼児の間から少しずつ木に触れられる機会を作っておくとさらに良いと思います。
	技術の獲得	5 (8.9)	・幼小で木を拾ったり、その木に釘打ちしたりして製作すると思う。 ・道具の使い方など、しっかり教えることで安全に使うスキルが身に付くと思います。
木育の教育効果	木とふれあう経験	18 (32.1)	・木の質感、匂いは子どもに大きな広がりをもたらすと考えます。 ・木の種類によって木の感覚や、木目の違い、形、重さ、いろいろな事が違ってくるので、学びも多いと思う。
	環境教育	13 (23.2)	・自然への興味を持ち、親しみ、森林への環境を理解しながら豊かな心を育てたいという思いに繋がると思います。 ・幼少期から、木の実や枝に触れることで課外活動に出た時に、自然物に興味を持ったり、気付く力がつく。
能力の育ち	コミュニケーション	17 (30.4)	・木という自然の物と触れ合うなかで心がいやされたり、一緒に造形する楽しさが生まれやすくなると思う。 ・一緒に協力し合って制作をする。教え合いをする中で交流がふかまるのではないかな。
	表現力、創造性、発想力	13 (23.2)	・子どもの創造性が周りとの関わりでさらに向上すると思う。 ・発想力が豊かになる。
	意欲、集中力	11 (19.6)	・1つのものを使い、何かを作ることで、集中力が生まれ、達成感を味わうことで、小学校に進学してからの、活動に役立つ。 ・造形活動によって自分で考えて作る力、アイデアが、今後の小学校生活の中で集中力がつき勉強に集中できたり、自分の考え、思いを人に伝えられる力がつくと考えています。
分からない	分からない	2 (3.6)	・活動を見ていないので、回答しづらい箇所があったが、ぜひ、木育実践を見てみたいです。

註 括弧内は自由記述の総回答数 (N = 56) に対する割合 (%)

主なカテゴリーとして「経験・学びの連続性」「木育の教育効果」「能力の育ち」に分けられ、それぞれのカテゴリーはさらに小カテゴリーに分類された。

「経験・学びの連続性」については、幼児期の経験が小学校にも影響するなどの「幼小の経験の連続性」、または具体的に理科や生活科をはじめとする「小学校の学習への効果」、「図工・制作への効果」や、道具の使い方などの「技術の獲得」が挙げられた。これらの回答から、幼児期の木育の経験が、将来の小学校の学びへと繋がることを期待している様子が窺われる。

「木育の教育効果」については、木の種類、質感、匂いなどの「木とふれあう経験」、さら

には木育を通して自然への興味を育てるなどの「環境教育」が挙げられた。これらの回答から、幼児期の木育の経験が自然に対する感性を育てるなどの教育効果につながる事が期待されていることが窺われる。

「能力の育ち」については、制作における協力や交流などの「コミュニケーション」をはじめ、「表現力、創造性、発想力」「意欲、集中力」といった、活動における非認知的能力の育ちに言及するものである。これらの回答から、木育は「経験・学びの連続性」で挙げられている、学力に結びつく認知的能力だけでなく、その下支えとなる非認知的能力の育ちにも効果があると考えられていることが窺われる。

5. おわりに

本研究では、実践に参加・調査協力した多くの保育者が、「木育」について保育に役立つと考えていた。また、日々の保育において、多少は幼小連携を意識していることが窺われ、その半数近くの保育者は今回の活動が幼小連携に役に立つと考えていた。幼小連携を意識した「木育」活動のイメージの差異について、幼小連携を意識した保育活動を行っている保育者は、「木育」が特にコミュニケーションにとって有効であることを感じていた。そして、「木育」による作品づくりの幼小連携への効果を肯定的に捉えている保育者は、「木育」の効果や保育への導入について肯定的であり、また活動に対して自信を持っていると言えることがわかった。

木育による造形活動の幼小連携における可能性については、「経験・学びの連続性」「木育の教育効果」「能力の育ち」のカテゴリーに分けられ、幼小の経験の連続性や木育経験による感性を育むなどの教育効果につながることで、さらに学力に結びつく認知的能力だけでなく、その下支えとなる非認知的能力の育ちにも効果があると考えられていることがわかった。

今後の課題として、本研究において質問紙調査の結果から示された木育による造形活動の幼小連携における可能性について、実際の保育実践への導入と、その効果についての検討が挙げられる。

註

- 1) 幼稚園、保育所、認定こども園を含めた保育者養成機関を「保育者養成校」に用語統一する。
- 2) 「木育」とは、平成16年に北海道庁が発信した地域プロジェクトであり、木とのかかわりを通して、自然の一部として多くの生命と共存しながら生きていることを実感し未来へつなげる取り組み。

- 3) 矢野真（研究代表者）：「保育者養成におけるコミュニケーション能力を育成するための造形教材の開発」科学研究費補助金基盤研究（C）15K04324 平成27年度～30年度
- 4) S幼稚園 造形研修会「木育を活用した保育」
- 5) 舞鶴園長会・舞鶴民間保育連盟研修会「感性を育む木育」（舞鶴赤レンガパーク・5号棟）
- 6) 第53回全国幼年美術の会夏季大学・実技研修「感性を育む木育」（龍谷大学 深草キャンパス 2号館）
- 7) 第54回全国幼年美術の会夏季大学・実技研修「目で耳で鼻で手で『木』を感じてみよう」（龍谷大学 深草キャンパス 2号館）
- 8) 第55回全国幼年美術の会夏季大学・実技研修「木に触れよう、木であそぼう！」（龍谷大学深草キャンパス 2号館）
- 9) 第4回北・上地区別研修会（京和幼稚園）

引用文献

- 文部科学省（2012）。「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）」https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm 閲覧日：2020年9月1日
- 内閣府・文部科学省・厚生労働省（2017）。「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領原本」、チャイルド社
- 矢野真・田爪宏二（2017）. 保育者養成におけるコミュニケーション能力を育成するための造形教材の開発Ⅰ 京都女子大学発達教育学部紀要, 13, 63-71.
- 矢野真・田爪宏二（2019）. 地域連携を通じた木育教材の開発—木育ワークショップに参加した学生の学びから—, 京都女子大学発達教育学部紀要, 15, 93-105.

付記

本研究は、令和2年度科学研究費 基盤（C）研究課題（課題番号：19K02821）「幼小連携のための保育・教育実践における木育教材の開発」（研究代表者：矢野真，分担者：田爪宏二，吉津晶子）の補助を受けて行われたものである。